

今日の説教のポイント <使徒言行録 20 章 1～6 節>

①「励まし」で何を期待しているか？

パウロが信仰者となった人々を励ましながら歩いたということがまず印象に残る個所です(1, 2)。皆さんの中には、「私も励ましてほしい」と思う人もいます。しかし、その時、「励まし」でどんなことを考えていますか？ ここで「励ます」と訳されている原語は、「勧告する、訓戒する」という意味を持った語で、訓戒されることによって励まされるような励ましなのです。今日の箇所では「ギリシア」として出て来る町コリントの教会員に語る中で使われています。「さて、兄弟たち、私たちの主イエス・キリストの名によってあなた方に勧告します。皆、勝手なことを言わず、仲たがいせず、心を一つにし、思いを一つにして、固く結び合いなさい」(コリント一 1:10)。世には色々な励ましがあり、それによって慰められ、励まされることは確かにあります。しかし、ここでのパウロの励ましはそれらとは違います。イエス・キリストを知り、イエス・キリストを思うことによって、新たに湧き上がって来る励ましなのです。

②励まされた人々は、自分たちより貧しいエルサレムの人々に献金を集めて送ろうとしていた！

励ましを受けた人々、すなわち、エフェソやコリントやテサロニケやベレアの人々は激しい迫害を受けていた人々でした。しかし、彼らは励ましを受けながら同時進行でなしていた取組がありました。それは、自分たちより貧しいエルサレムの教会のために募金を集め、それをエルサレムに持って行く取組でした(コリント一 16:1-9)。今日の箇所に出る人々は、迫害を受ける中でも、パウロと一緒にエルサレムに募金を持って行こうとしている人々だったのです！

自分の不幸だけを見つめ、自分だけで思い巡らしていても、本当の励ましに出会って立ち上がることはできません。しかし、神様は立ち上がる道を用意して下さっているのです！ 神様が起こして下さったキリストの救いの出来事に目をやり、その神様と共に歩む者となること。その時、不幸や災いに対する考え方も変えられて行くのです！ 真の励ましは、そこに、既に、与えられているのです！